

孫の育児に参加する祖父母の精神的健康に関する文献的考察

小松紗代子*^{コマツ サヨコ} 齋藤 民*^{サイトウ タミ} 甲斐 一郎*^{カイ イチロウ}

目的 祖父母が孫の育児に参加することは、育児支援という視点からも、高齢期の生きがいづくりという視点からも意義があると思われる。「祖父母」という育児資源を利用し続けていくためには、祖父母の健康への影響を理解することが重要と考え、本研究では、国内外の孫の育児に参加する祖父母の精神的健康に焦点を当てた研究を整理し、今後の研究を進めていく上での課題を明らかにすることを目的とした。

方法 国内の文献は医中誌 web・メディカルオンライン・CiNii・DiaLを用いて検索し、引用文献を含めた計10件を本研究に活用した。海外の文献はWeb of Knowledge・PubMedを用いて検索し、英文文献計10件を本研究に活用した。

結果 国内の文献では、孫の育児あり/なし群の比較によって健康影響を比較した文献がみられなかった。一方、孫の育児に参加している祖父母の内部比較からは、孫育児参加の精神的健康に影響を与える要因が複数存在する可能性が示された。また、孫育児へ参加している祖父母は精神的に良い影響（主観的幸福感・生きがい）と悪い影響（抑うつ・不安）の両方を受けていることが示された。英文文献では、支援型の孫育児による精神的健康への影響について、良い影響を報告する文献と悪い影響を報告する文献とに分かれ、一貫した結果が得られなかった。また、日本とアメリカの研究を両方整理したことにより、両者の研究方法、特に対照群の選択基準や用いた尺度、解析における調整の有無などに違いがあることが明らかになった。

結論 国内外の文献から孫の育児参加の有無による精神的健康への影響を結論づけることはできなかった。一方、孫育児に参加している祖父母は精神的に良い影響と悪い影響の両方を受けていること、精神的健康を左右する要因が複数考えられることが示された。今後の研究課題としては孫育児の定義を明確にして研究を進めること、研究のデザインや解析の方法を工夫すること、祖父母の身体的な健康にも焦点を当てた研究を進めることが挙げられる。

Key words : 祖父母, 孫, 育児支援, 健康

I 緒 言

近年、女性の社会進出が進み、子育て期にある女性の有業率は増加している^{1,2)}。また、核家族化の進行により育児の孤独化も問題とされている³⁾。育児負担の大きい子育て世代をサポートする仕組みとともに、祖父母からの支援もまた大事な育児支援資源である。

日本では三世代世帯は近年減少傾向にあるものの、祖父母の育児支援は今後も重要な資源であり続けると予測される。それは部分的には同居率が依然

として高いことと、近居という居住環境の選択が増えていることから伺える。具体的には、全世帯のうち三世代世帯は6.9%⁴⁾と低い一方で、対象を共働きの家庭に限ると、三世代世帯は約30%ある⁵⁾ことや、親と別居している20歳以上の既婚者のうち「敷地内別居」、「親世代の距離が1時間以内」である者を合わせた割合は1994年の63.9%から2007年の76.0%と高くなっている⁶⁾ことが挙げられる。昨今の不景気で、共働きの家庭は増加すると予測される一方^{7,8)}、保育施設の増設には時間がかかることや、とくに低年齢児では保育にかかるコストが高いことから、ますます孫の世話を祖父母に託したい、頼らざるを得ないという需要は増加するのではないかと考える。

祖父母が育児に参加することが母親の負担軽減やメンタルヘルスに良い影響を及ぼすことが先行研究により明らかにされている。山田らの研究によれば

* 東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻老年社会科学分野
連絡先：〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1
東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻老年社会科学分野 小松紗代子

「働く母親の半数が祖母の協力を得ており」、「家事育児やその他突発的出来事に対し、遠慮しないで頼める唯一の存在として」頼りにしている様子がうかがえるという⁹⁾。また、八重樫らは祖父母が適度に子育てに参加し適度に孫と交流しているとき、母親の不安が低くなると報告している¹⁰⁾。

一方、育児参加が祖父母にもたらす影響も数は少ないが報告されている。古くから日本では、「目の中へ入れても痛くない」くらいかわいいものとして孫の存在が捉えられており、祖父母にとって孫との交流は幸福な体験であると考えられてきた。その一例として、橋本らは、孫の誕生を経験した祖父母の幸福感が高いことを示している¹¹⁾。一方で、近年では社会の価値観が変化し、高齢になってから趣味を楽しんだり第二の人生を謳歌したりするなど、祖父母としての役割に縛られない自由な高齢期の過ごし方も認められるようになった。育児の方法や家族のあり方も変化し、孫の育児を任せられた祖父母からの悩み相談があるケースも報告されている¹²⁾。孫との関わり方によっては祖父母に負担をもたらす可能性も否定できない。

欧米では子育てできない子世代に代わってフルタイムで孫の面倒をみる主たる育児者 (Primary/Custodial caregiver: 以下「保護者型」) の祖父母への健康影響が問題となっている。これらの祖父母は、親の死亡、親が服役中、薬物/アルコール中毒、精神/身体障害を有している、親による虐待やネグレクトといった理由で孫の育児を担っていることが報告されていた^{13,14)}。このような祖父母に関するレビューはすでに報告されており、抑うつやストレス、健康行動の変化など、幅広く問題が取り上げられている^{15~17)}。

保護者型の孫育児が社会問題化している諸外国と異なり、日本では両親の育児を手伝う「支援型」の孫育児が主流であり、孫育児書¹⁸⁾や、保健師や助産師らが開催している祖父母教室^{19,20)}は支援型の祖父母に焦点をあてたものである。しかし、日本の孫育児に該当するような、支援型の孫育児による祖父母への健康影響について整理した研究は、筆者らの知る限り見当たらない。「祖父母」という資源を利用し続けていくためには、祖父母の健康への影響をきちんと理解しておくことが重要と考えられる。そこで本研究では、国内外の孫の育児に参加する祖父母の精神的健康に焦点を当てた研究を整理し、今後の研究を進めていく上での課題を明らかにすることを目的とした。

II 方 法

1. 和文文献

日本における孫育児に参加に関する文献を収集するために、(孫 AND 育児) OR (祖父母 AND 育児支援) という検索式を作成し、医学中央雑誌刊行会の医中誌 Web (Ver.4) Advanced Mode, 株式会社メテオの医学文献検索サービス Medical*Online, 国立情報学研究所の CiNii, ダイア高齢社会研究財団の DiaL 社会老年学文献データベースを用いて検索した。ただし DiaL においては「孫」、「育児」、「祖父母」の単検索語でそれぞれ検索している。文献の年代について制限は設けていない。このうち調査対象を祖父母とし、孫の世話による祖父母への精神的健康影響に言及している文献に限り、本資料で活用することとした。

本研究では、文献の選定基準として「孫育児」の明確な定義を設けず、明確に育児参加と定義が述べられていなくとも、孫との直接的な交流と祖父母の健康に言及している文献を対象とした。

文献の分析においては、研究のデザイン・目的、孫育児の定義、対象者の抽出方法・人数・特性・孫の年齢、対象地域、調査方法・尺度、結果について抽出し、このうち一部を表 1 にまとめた。

2. 英文文献

和文文献において取り上げられた精神的健康影響について海外の文献と比較するため、(care* AND grandchild*) AND (“mental health” OR psycholog* OR stress OR well-being) という検索式を作成し、Web of Knowledge と PubMed で検索した。ただし文献の年代について制限は設けていない。このうち祖父母の精神的健康に言及しており、かつ支援型の孫育児を担っている祖父母を対象とした文献について整理することとした。「支援型」の定義や呼び名は様々であるが、フルタイムの孫育児ではなく、育児を部分的に担っていると推定される記述のある文献を対象とした。

文献の分析においては、研究のデザイン・目的、孫育児の定義、対象者の抽出方法・人数・特性・孫の年齢、調査方法・尺度、結果について抽出し、このうち一部を表 2 にまとめた。

III 結 果

1. 日本における孫育児研究

計 61 件の文献がヒットした (2009 年 1 月 10 日現在)。このうち条件に合った 7 件の文献を本研究に活用した。また、文献に引用されている文献等 3 件を加え、計 10 件を調査対象とした^{21~30)}。収集した

文献の内訳は、論文8件、報告書2件であった。和文文献の概要を〔表1〕に示す。

対象とした文献ではすべて孫を持つ祖父母が分析対象者であった。対象者を、孫育児に参加している祖父母として操作的に定義している文献は、6件あった。これらの定義を以下に示すと、「孫と同居しており、日常的に孫と関わりをもつ祖母」²⁴⁾、「3~5歳児をもつ祖父母のうち、幼児と同居または近隣に居住しかかわりのある者」^{25~27)}、「子・孫と1時間以内の近居であること」^{28,29)}と著者によってそれぞれ独自に定められていた。

10件の研究のうち「孫の育児に参加していない」祖父母という対照群を明確に置いた研究デザインは見当たらず、すべて育児に参加している祖父母の内部比較による文献であった。

育児参加による精神面への影響については、抑うつと主観的幸福感に関しては尺度を用いた測定が行われていたほか、祖父母の抱える様々な悩みや喜びの記述も報告されていた。

孫育児による精神面への影響を、尺度を用いて検討している文献は3件あった。宮中らはPGCモラルスケール(Philadelphia Geriatric Center Morale Scale)を用いて祖母の主観的幸福感を、自己評価式抑うつ尺度(Self-Rating Depression Scale: SDS)を用いて祖母の抑うつ傾向を測定している^{25,27)}。SDSの得点は平均30.1(SD=7.3)であり、これは一般女子学生より約4点高く、60歳以上の老人施設入居者よりも約11点低い結果であった^{25,27)}。解析の結果、心の健康と「孫育て参加の意識」との関連が明らかになり、具体的には、孫育て上、身体的疲労の心配のない者、孫育てが楽しい者、自分の子育ての頃と孫育ての仕方が異なり戸惑うことのない者、母親と育児方針が異なる者で心の健康度が有意に高かった^{25,27)}。一方、杉井らもPGCモラルスケール17項目のうちの3項目(孤独感・有用感・生活満足度)と独自に作成した祖母と孫との関係性を測定する4項目の計7項目を用いて、主観的幸福感を測定している²⁴⁾。杉井らは祖母が育児にかかわる際の「孫育て参加の実態」が心の健康に関連するとしており、具体的には、母親の育児量に関わらず、また祖母としての育児参加意欲の積極性に関わらず、実態としての育児量の多い者で、主観的幸福感が高まるとしている²⁴⁾。また孫育児の内容については直接的子育てよりも社会文化的子育てを行うことによって主観的幸福感が高まるとしている²⁴⁾。

育児参加の否定的な影響について独自項目によって測定された結果をまとめる。宮中らの研究では、育児参加において何らかの心配や不安がある祖母は

70.8%おり、その内容は「自分の身体の疲労」、「自分が子育てをしていた時と子育ての仕方が異なり戸惑う」、「孫の母親との育児方針の相違」、「孫がなつかない」というものであった^{25~27)}。小野寺は育児参加における悩みを「ケア内容をめぐる悩み」と「ケア基盤をめぐる悩み」の2つに大別した²⁹⁾。「ケアの内容」については、「今どきの子ども」である孫の教育やしつけの難しさを挙げるものが多く、「ケア基盤をめぐる悩み」としては、身体的疲労を筆頭に、自分自身の時間を持つことの困難さ、育児責任の重圧、金銭面の負担等が挙げられている²⁹⁾。久保らは質的データから祖母になるということに関する記述を7つに分類し、その1つとして重荷について取り上げており、孫の世話をすることの身体的な疲労に加え、心理的な疲労、忙しさ等をまとめている³⁰⁾。

次に育児参加によって得られる肯定的な影響について独自項目によって測定された結果をまとめる。孫との関係によって得られる肯定的な意識としては、孫がいることに生きがいや張り合いを感じることや、若々しい気持ちになることが挙げられる。生きがいを感じると答えた祖母は78.0~95.2%おり^{21,22,25,27)}、若々しい気持ちになれると回答した祖父は74.9%、祖母は79.5%いた²²⁾。質的研究でも、「人生に張り合いがあるというか・・・楽しみが増えたという感じ」、「孫がいると活気がでる」、「孫から元気をもらおう」といった語りが報告された³⁰⁾。

2. 海外における孫育児研究

Web of Knowledgeで115件、PubMedで144件の文献がヒットした(2009年1月10日現在)。このうち祖父母の精神的健康影響について言及している文献は36件、さらに保護者型の孫育児だけではなく支援型の孫育児にも焦点を当てている文献は10件であった^{31~40)}。本研究ではこの10件の文献について整理することとした。

10件の文献はすべてアメリカの文献であった。文献の概要を〔表2〕に示す。

支援型育児者の定義・呼び方は〔表2〕に示した通り多様であった。「同居していない1人以上の孫に対して過去2年間に計100時間以上の孫の世話をしている」者^{34,39)}、「平均して週30時間以上(週10~29時間/週1~9時間)孫の世話をするか、過去1年間に孫だけの宿泊が90日以上(7~89日/1~6日)あった」者³⁵⁾、「週15時間以上孫の世話をしている」者³¹⁾、「三世代世帯の祖母」^{32~34,38,40)}という操作的定義がなされていた。日本の研究のように孫の年齢を狭く限定している文献は見当たらなかった。

精神的健康の尺度としてはCenter for

表1 日本の孫育児研究の概要

	デザイン	分析対象者数	従属変数	結 果
	方 法	選出方法		
北村 (2008) ²¹	量的横断研究 質問紙調査	416人(男性187・女性229) 全国の生活調査モニター 50~70歳の男女から回収 した質問票のうち、「孫が いる」と回答したもの	独自の質問項目 (孫がいることに、はり あいや生きがいを感じ る・孫と接すると身体的 に疲れを感じる 等)	<ul style="list-style-type: none"> 孫との関係をめぐる意識について、「はりあいや生きがい」を感じている祖父母は9割以上いた
清水 (1994) ²²	量的横断研究 質問紙調査	1,038人 (男性475・女性563) 兵庫県の孫を持つ婦人会 の会員とその配偶者。孫 の年齢を4~5歳に近くす るため、50代後半から60 代前半の会員が中心とな るように配慮	独自の質問項目 (孫とのかかわりの態度 をたずねる3項目・孫は どのような存在かをたず ねる10項目 等)	<ul style="list-style-type: none"> 「孫はかわいいと一緒にいると疲れることが多い」と回答した祖父母が5割以上いた。同居の祖父母よりも、遠居の祖母、近居の祖父でこの割合が高かった 孫の存在を「生きがい」だと感じている祖父母は7割以上いた 「孫がいるおかげで若々しい気持ちになれる」と回答した祖父母は7割以上いた
杉井ら (1994) ²³	量的横断研究 質問紙調査	177人(男性14・女性163) 兵庫県北部の3地域の3 歳児健診受診者の祖父母	PGC モラールスケール より「孤独感」「有用感」 「生活満足感」のサブス ケールを利用	<ul style="list-style-type: none"> 親との「意見が合う」と認識している者ほど「有用感」が有意に高かった 「生活満足感」は孫から慕われ、なつかれる事によって高まった
杉井ら (1996) ²⁴	量的横断研究 質問紙調査	111人(女性111人) 兵庫県北部の3地域の3 歳児健診受診者の祖父母	<ul style="list-style-type: none"> 主観的幸福感に関する独自項目 PGC モラールスケールより「孤独感」「有用感」「生活満足度」のサブスケールを利用 	<ul style="list-style-type: none"> 祖母自身が多く孫育てを行っているほど主観的幸福感が高かった 祖母自身の育児参加意欲と祖母の主観的幸福感に有意な相関は見られなかった 「昔話や本の読み聞かせ」「ほめたり叱ったりする」という孫育児の内容で主観的幸福感が有意に高かった
宮中ら (1995) ²⁵	量的横断研究 質問紙調査	270人(女性270人) 京都府内の3歳児検診受 診者のうち、孫の母親と 同居または近隣に居住 し、孫と何らかの養育的 関わりのある祖母	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価式抑うつ尺度 (Self-Rating Depression Scale: SDS) PGC モラールスケール (主観的幸福感) 子育て参加の心配・不安に関する独自項目 	<ul style="list-style-type: none"> 身体疲労を感じている祖母は43.7%いた 子育て参加の意識がネガティブ(身体疲労の不安・孫の世話が楽しくない・母親との育児方針の相違 等)なほど心の健康が有意に悪かった 子育て参加度(幼児期の直接的子育て・乳児期の直接的・社会文化的子育て)によって心の健康に有意な違いが生じた
宮中ら (1996) ²⁶	量的横断研究 質問紙調査	528人(女性528人) 京都府内の3歳児検診受 診者のうち、孫の母親と 同居または近隣に居住 し、孫と何らかの養育的 関わりのある祖母	<ul style="list-style-type: none"> 子育て参加の心配・不安に関する独自項目 	<ul style="list-style-type: none"> 孫の世話を生きがいと感じている祖母は71.8%いた
宮中 (2001) ²⁷	量的横断研究 質問紙調査	528人(女性528人) 京都府内の3歳児検診受 診者のうち、孫の母親と 同居または近隣に居住 し、孫と何らかの養育的 関わりのある祖母	<ul style="list-style-type: none"> 自己評価式抑うつ尺度 (Self-Rating Depression Scale: SDS) PGC モラールスケール (満足度) 子育て参加の心配・不安に関する独自項目 	<ul style="list-style-type: none"> 抑うつ度に影響する要因は、「子供の世話が嫌い」「直接的子育て参加が少ない」「身体疲労」「母親が実娘」「育児方針の相違」「社会文化的子育てが多い」等だった 満足度に影響する要因は、「育児方針の相違なし」「子供の世話経験」「身体疲労なし」「子供の世話が好き」「直接的子育て参加が多い」等だった

表1 日本の孫育児研究の概要(つづき)

デザイン	分析対象者数	従属変数	結 果
方 法	選出方法		
小野寺 (2004) ²⁸	質的研究 半構造化面接	11人(女性11人) 札幌市圏で行った別の調査の回答者から、子や孫と別居しており、子世代と1時間以内に近居している祖母を抽出した	— <ul style="list-style-type: none"> 育児参加における悩みを「ケア内容をめぐる悩み」と「ケア基盤をめぐる悩み」の2つに分類。「ケアの内容」は、孫の教育やしつけの難しさなど、「ケア基盤をめぐる悩み」は、身体的疲労、時間的拘束、育児責任の重圧、金銭面の悩みなどとした 根本的な解決が達成されていないことを指摘した
小野寺 (2004) ²⁹	質的研究 半構造化面接	11人(女性11人) 札幌市圏で行った別の調査の回答者から、子や孫と別居しており、子世代と1時間以内に近居している祖母を抽出した	— <ul style="list-style-type: none"> 孫と別居する祖母の支援満足度は、認知される精神的支援が多いほど高くなった。そして精神的支援量は、祖母と孫家族との交流が多く、支援の負担が祖母の生きがいや楽しみを侵害せず、自身の老後のケアを対象家族に期待でき、祖父が協力的であると認識するほど多くなった
久保ら (2008) ³⁰	質的研究 半構造化面接	10人 孫を持つ女性(機縁法)	— <ul style="list-style-type: none"> 祖母になるということに関する記述は「癒し体験」[いきがい][命のつながり][浄化][重荷][家族の変化][夫婦関係の好転]という大カテゴリーに分類された

Epidemiologic Studies Depression Scale (CES-D) を用いて抑うつを調査したものが多く、他に育児負担・ストレス・祖父母満足度や生活満足度といった well-being について調査しているものもあった。

以下では支援型の祖父母と比較している対照群の置き方によってまとめることとした。

支援型育児を行う祖母と、育児を行っていない祖母とを比較した研究が4件あった。Health and Retirement Survey のデータを用いた Szinovacz ら³⁹⁾の研究では、同居していない孫の世話を年800時間以上(換算すると週15.3時間以上)している祖母は、孫の世話をしていない祖母よりも有意に抑うつ度が低いことが示された。また Bowers ら³¹⁾の研究では、同居していない孫の世話を週15時間以上している祖母は、普段世話をしていない祖母よりも祖父母満足度は有意に高い傾向がみられた。一方 Musil ら³⁸⁾の研究では、息子/娘およびその子(孫)と同居して孫の世話をしている祖母は、世話をしていない祖母よりも有意にストレスが高く、抑うつ度が高いことを報告していた。また、National Survey of Families and Household (NSFH) のデータを用いた Minkler ら³⁵⁾の研究では、週30時間以上孫の面倒をみている祖母は世話をしていない祖母よりも有意に抑うつ度が高かったが、多変量解析すると有意な差はみられなくなった。

保護者型の祖母と支援型の祖母を比較した研究は

10件存在した。保護者型の祖母と三世代世帯の祖母とを比較した論文は複数存在したが、すべて抑うつ度に有意な差はみられなかった³²⁻³⁸⁾。一方抑うつ以外の精神的健康について2群を比較した研究では一貫した結果は得られていない。Bowers ら³¹⁾の研究では、同居していない孫の世話を週15時間以上している祖母は保護者型の祖母よりも有意に育児負担感や育児ストレスが低く、生活満足度や祖父母満足度が高いと報告している。Musil らも三世代世帯の祖母の方が保護者型の祖母よりも有意に育児負担³⁷⁾、育児ストレス³⁶⁾が低いと報告している。一方 Goodman ら³³⁾はアフリカ系の祖母においては三世代世帯の祖母の方が保護者型の祖母よりも有意に生活満足度が低いとして、Bowers らや Musil らとは逆の結果を報告している。また、保護者型と支援型ではストレス³⁹⁾、生活満足度^{32,33)}、不安^{37,38)}に有意な差はみられないとする研究があった。Standing ら⁴⁰⁾は孫との家族形態の変化を経験した祖母への質的研究を行っているが、保護者型や三世代世帯から近居へ移行した祖母は孫と暮らす生活がストレスフルであったと語っていたことや、保護者型や三世代世帯へ移行した祖母が自由を制限されていると訴えたのに対して、近居へ移行した祖母が自由を実感していると語っていることを報告している。

支援型の祖母同士の育児量の違いによって精神的健康への影響を検討した文献は1件あった。NSFH

表2 欧米の孫育児研究の概要

デザイン 調査方法	孫育児の定義	分析対象者数		従属変数	結果
		選出方法	従属変数		
Bowers BF et al (1999) ³¹	<ul style="list-style-type: none"> • Full-time parenting responsibility...孫に身体的・経済的な世話の全責任を負っている • Part-time caregiving...週15時間以上は孫の世話をしている • No regular caregiving responsibility...少なくとも2週間に1度は会う 	101人 (女性101)	<ul style="list-style-type: none"> • Child Behavior Checklist • Zarit Burden Interview • Satisfaction with Grandparenting scale • Parenting Stress Index • Interpersonal Support Evaluation List • Life Satisfaction List A 	<ul style="list-style-type: none"> • part-time で世話をする祖母は full-time で世話をする祖母よりも有意に育児負担や育児ストレスが小さく、生活満足度が高かった • part-time で世話をする祖母は full-time で世話をする祖母や世話をしていない祖母よりも有意に祖父母満足度が高かった 	
Goodman CC et al (2003) ³²	<ul style="list-style-type: none"> • Custodial grandmother...孫とのみと同居 • Coparenting grandmother...孫・孫の片親と同居 	987人 (女性987)	<ul style="list-style-type: none"> • Center for Epidemiologic Studies Depression Scale (CES-D) • Satisfaction with Life Scale 	<ul style="list-style-type: none"> • custodial な祖母と coparenting な祖母の間で抑うつ・生活満足度に有意な差は見られなかった • 家族のきずなが強いほど well-being が有意に高かった 	
Goodman CC et al (2006) ³³	<ul style="list-style-type: none"> • Custodial grandmother...孫とのみと同居 • Coparenting grandmother...孫・孫の片親と同居 	1,051人 (女性1,051)	<ul style="list-style-type: none"> • Positive and Negative Affect Scale • Satisfaction with Life Scale • CES-D 	<ul style="list-style-type: none"> • アフリカ系の祖母においては coparenting 型の祖母は custodial 型の祖母よりも有意に生活満足度が低かった 	
Hughes ME et al (2007) ³⁴	<ul style="list-style-type: none"> • Babysitting...同居していない孫に対して過去2年間に計100時間以上の世話をしている • Multigenerational household...親(両親でも片親でも可)と孫と同居している • Skipped-generation household...孫のみと同居している • No care...孫の世話を年間50時間未満しかみていない 	12,872人 (男性5,456, 女性7,416)	<ul style="list-style-type: none"> • CES-D (短縮版) • 主観的健康感 • 独自項目(喫煙・アルコール・運動・肥満・慢性疾患・機能の制限) 	<ul style="list-style-type: none"> • 三代同居を開始、もしくは継続している祖母は孫育児をしていない祖母よりも有意に抑うつ度が高かったが、個人要因を調節すると有意差はみられなくなった • 三代同居を継続している祖母は孫育児をしていない祖母よりも有意に抑うつ度が高かったが、個人要因を調節すると有意差はみられなくなった 	
Minkler M et al (2001) ³⁵	<ul style="list-style-type: none"> • Custodial caregiver...過去3年間に6か月以上孫の養育に責任を持っていた • Extensive caregiver...平均して週30時間以上孫の世話をするか、孫だけの宿泊が昨年90日以上あった • Intermediate caregiver...平均して週10~29時間以上孫の世話をするか、孫だけの宿泊が昨年7~89日以上あった • Occasional caregiver...平均して週1~9時間以上孫の世話をするか、孫だけの宿泊が昨年1~6日以上あった • Noncaregiver...去年特に孫の世話をしなかった 	3,260人	<ul style="list-style-type: none"> • CES-D (12項目) • National Survey of Families and Household (NSFH) の第2回に回答した者のうち孫がいる祖父母 	<ul style="list-style-type: none"> • Extensive 型の祖父母は Intermediate 型・Occasional 型・Noncaregiver 型の祖父母よりも有意に抑うつ度が高かったが、個人特性を調整しても有意差がみられたのは、Intermediate 型の祖父母のみであった • Extensive 型の祖父母と Custodial 型の祖父母とは、抑うつ度に有意な差はみられなかった 	

表2 欧米の孫育児研究の概要(つづき)

デザイン 調査方法	孫育児の定義	分析対象者数		従属変数	結果
		選出方法	選出方法		
Musil CM et al (1998) ³⁶	量的横断研究 郵送による質 問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> • Primary responsibility...孫と同居し、孫の育児に全面的に責任を負っている • Partial responsibility...孫と同居し、孫の育児に部分的に責任を負っている 	90人(女性90)	<ul style="list-style-type: none"> • 主観的健康感 • CES-D • SCL-90より anxiety subscale • Parenting Stress Index/short form • Grandparents' Strengths and Needs Inventory 	<ul style="list-style-type: none"> • primary型の祖母の方がpartial型の祖母よりも有意に育児ストレスが高かった • 不安や抑うつ、主観的健康感では両群に有意な差は見られなかった
Musil CM et al (2000) ³⁷	量的縦断研究 (4回目的調査から10か月後に再度質問紙の送付、追跡調査を実施) 郵送による質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> • Primary responsibility...孫と同居し、孫の育児に全面的に責任を負っている(育児の理由は「親の薬物中毒や健康問題」「虐待やネグレクト」) • Partial responsibility...孫と同居し、孫の育児に部分的に責任を負っている(育児の理由は「三世帯世帯」「親が未成年」「親の就学や就労」) 	74人(女性74)	<ul style="list-style-type: none"> • 主観的健康感 • CES-D • SCL-90より anxiety subscale • Parenting Stress Index/short form 	<ul style="list-style-type: none"> • 育児負担は調査の前後で有意に増加しており、世話判ではprimary型の祖母の方がpartial型の祖母よりも有意に高かった • 抑うつでは交互作用がみられた。(primary型の祖母は調査の前後で増加、partial型の祖母は調査の前後で減少した)
Musil CM et al (2002) ³⁸	量的横断研究 郵送による質問紙調査	<ul style="list-style-type: none"> • Primary caregiver...孫と同居しており、孫の養育に全面的に責任を負っている、息子/娘夫婦とは同居していない • Partial/supplemental caregiver...孫と同居しており、息子/娘夫婦の育児を日常的に手伝っている • Noncaregiver...孫の家族と別居しており孫の育児に責任を負っていないが、車で1時間以内に住んでおり、定期的に孫との交流がある 	283人(女性283)	<ul style="list-style-type: none"> • CEC-D • 主観的健康感 • 独自項目(ストレス・健康資源・健康行動) 	<ul style="list-style-type: none"> • primary型やpartial/supplemental型の祖母はnoncaregiverの祖母よりも有意に高くストレスを感じているが、primary型とpartial/supplemental型においては有意な差は見られなかった • partial/supplemental型祖母は世話をしない祖母よりも抑うつ傾向が強かった • 年齢・教育・就業・配偶者を調整すると、partial/supplemental型祖母はprimary型祖母よりも抑うつの傾向が強かった
Színovacz ME et al (2006) ³⁹	量的横断研究 電話または対面による構造化面接	<ul style="list-style-type: none"> • Care inside the household...調査の前後で少なくともどちらかは孫と同居していた者(さらにベースライン時のみ、第2回調査時点のみ、両方とも同居していた、3つのグループに分類) • Care outside the household...調査期間中孫と同居したことはないが年100時間以上の世話をしている者(さらに年200時間未満、年200~799時間、年800時間以上、の3つのグループに分類) • Provide no care...上記以外の者 	2,681人 (男性1,200, 女性1,481)	<ul style="list-style-type: none"> • CES-D 	<ul style="list-style-type: none"> • 年800時間以上別居の孫の育児をしている祖母は孫育児をしていない祖母よりも有意に抑うつの度合いが低かった • 祖父は孫育児の型・時間によらず、孫育児をしていない祖父と抑うつ度に有意差は見られなかった
Standing TS et al (2007) ⁴⁰	質的研究 電話による半構造化面接	<ul style="list-style-type: none"> • Primary caregiver grandmother...孫のみと同居 • Multigenerational home grandmother...孫と息子/娘夫婦と同居 • Non-coresident grandmother...孫の家族と車で1時間以内に住んでおり、交流があり、週20時間以上の世話をしている 	26人(女性26)	—	<ul style="list-style-type: none"> • primary型や三世帯世帯から近居へ移行した祖母は、孫と暮らす生活がstressfulであったと語っていた • primary型や三世帯世帯へ移行した祖母は自由を制限されたと訴えたのに対して、近居に移行した祖母は自由を実感していると語っていた

のデータを用いた Minkler ら³⁵⁾の研究では、平均して週30時間以上孫の世話をしている祖母は、週10～29時間世話をしている祖母よりも有意に抑うつ度が高いことが示された。この結果は人口統計学的変数を調整して解析を行ってもなお有意であった。一方、平均して週30時間以上孫の世話をしている祖母は、週10時間未満世話をしている祖母よりも抑うつ度が有意に高かったが、人口統計学的変数で調整して解析すると有意な差はみられなくなった³⁵⁾。

Ⅳ 考 察

本研究では国内外の孫の育児に参加する祖父母の精神的健康への影響に着目している研究を整理した。これまで保護者型の孫育児による健康への影響をまとめた英文論文のレビューは複数存在するが^{15～17)}、支援型の孫育児に焦点をあてたレビュー論文は筆者らの知る限り見当たらない。しかし、わが国においては支援型の孫育児を担う祖父母が主流であり、今後も祖父母は親にとって重要な育児資源であり続けると考えられることから、本研究で、支援型孫育児による祖父母の健康への影響に関する文献を整理したことには大きな意義があると考えられる。

国内の文献では、孫の育児あり/なし群の比較によって健康影響を比較した文献がみられなかったため、純粋な孫育児による祖父母の精神的健康への影響を検討することはできなかった。一方、孫の育児に参加している祖父母の内部比較からは、孫育児参加の精神的健康に影響を与える要因が複数存在する可能性が示された。具体的には祖父母の精神的健康が、孫の世話を楽しいと感じるか、母親と育児方針が異なるかといった育児参加における「意識」に左右されるという研究と、孫育児への参加意欲に関わらず実際の育児量、すなわち孫育児の「実態」によって左右されるという研究が報告された。また、孫育児へ参加している祖父母は精神的に良い影響(主観的幸福感・生きがい)と悪い影響(抑うつ・不安)の両方を受けていることが示された。

英文文献では、支援型の孫育児による精神的健康への影響について、良い影響を報告する文献と悪い影響を報告する文献とに分かれ、一貫した結果が得られなかった。

さらに、日本とアメリカの研究を両方整理したことにより、両者の研究方法、特に対照群の選択基準や用いた尺度、解析における調整の有無などに違いがあることが明らかになった。両者の研究方法を比較すると、日本の文献においては、対象とする孫の年齢が幼児に限定されているものが複数見受けられ、孫の年齢の相違による育児内容の差、さらには

健康影響への差がある程度調整されているといえる。しかし、孫育児への参加の程度、頻度が客観的な尺度で測定・調整されておらず、デザインも横断研究のみであった。一方、英文文献では、大規模縦断研究の二次データを用いて孫育児の有無による健康影響の違いを分析した研究や、育児時間に基準を設けて孫育児を分類している研究が複数見受けられた。しかし、孫の年齢は日本の研究の様に統一されておらず、18歳以下、学生というように幅広く捉えられており、育児の内容について言及している文献は見当たらなかった。

以下では、今後の孫育児研究に期待する課題を3つ挙げたい。

課題の一つ目として、研究対象となる孫育児や対象集団の定義を明確に述べるべきであると考えられる。現在孫育児には共通の定義が存在しないが、孫育児の実態を把握する上でも、研究結果を比較検討する上でも、実施された研究報告では、取り上げた定義を明確に述べていく必要があるだろう。

課題の二つ目として、どのような研究デザインを組めば孫育児の健康影響が明らかになるのかを考える必要がある。まず、孫育児なし群を対照群に置いた調査が日本でも行われることが望まれる。さらに研究を進めていく際には、地域の高齢者から無作為抽出して一般化可能性の高いサンプリング方法をとったり、縦断研究を行って因果の方向を確認したりすることが必要だろう。また、経済状況や就労の有無といった調整変数を設定して解析していくことも必要だろう。

課題の三つ目として孫育児の身体的健康への影響について取り上げたい。本研究では結果として取り上げなかったが、対象とした文献では祖父母の身体的健康にも着目しているものがあった。具体的には量的研究では孫育児による祖父母への身体面への影響として「身体の疲労」がとりあげられており、孫育児を行っている祖母の43.7～56.6%^{21,22,25～27)}、祖父の43.3～54.1%が疲労を感じていた^{21,22)}。質的研究でも、身体の疲労について複数語られていた^{29,30)}。しかし祖父母の疲労以外に身体面への影響について詳しく言及した文献や、尺度を用いて身体面への影響を評価した文献はなかった。

孫育児を担う祖父母は孫の親よりも年上であり、体力の低下が疲労に結びつくことは容易に想像できる。実際の支援においても、疲労に関しては、孫の親たちへの支援内容とは異なるアプローチが求められると考えられるが、その際、祖父母の育児疲労がどのような特徴を持っているのかを知ることは非常に重要であると思われる。母親の育児疲労に関する

文献では、自覚疲労症状調査票を用いた研究^{41~44)}や、蓄積的疲労徴候インデックスを用いた研究⁴⁵⁾が報告されており、祖父母においても客観的な身体疲労の把握が必要と考える。

以上に述べた課題を解決し、孫育児研究の発展によって、親が安心して孫育児を祖父母に託せるような、また祖父母が不安なく孫育児を受け入れられるような支援の構築につなげられることが期待される。

V 結 語

本資料では、国内外の孫の育児に参加する祖父母の精神的健康に焦点を当てた研究を整理し、今後の研究を進めていく上での課題を明らかにすることを目的として研究を行った。国内外の文献から、孫育児に参加している祖父母は精神的に良い影響と悪い影響の両方を受けていること、精神的健康を左右する要因が複数考えられることが示された。今後の研究課題としては孫育児の定義を明確にして研究を進めること、研究のデザインや解析の方法を工夫すること、祖父母の身体的な健康にも焦点を当てた研究を進めることが挙げられる。

(受付 2009.11.13)
採用 2010. 8. 9)

文 献

- 1) 総務省統計局. 平成14年就業構造基本調査. 2003.
- 2) 総務省統計局. 平成19年就業構造基本調査. 2008.
- 3) 梅田直美. 「育児の孤立化」問題の形成過程: 1990年以降を中心に. 現代の社会病理 2008; 23: 109-124.
- 4) 総務省統計局. 平成17年国勢調査. 2006.
- 5) 厚生労働省大臣官房統計情報部. 人口動態統計特殊報告 出生前後の就業変化に関する統計 —人口動態職業・産業別統計と21世紀出生児縦断調査のリンケージ分析—. 2004.
- 6) 内閣府国民生活局. 平成19年版 国民生活白書. 東京: 時事画報社, 2007.
- 7) 東京都福祉保健局. 報道発表資料 保育所の状況等について. 2009.
- 8) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局. 政策レポート 待機児童対策について. 2009.
- 9) 山田英津子, 有吉浩美, 堀川淳子, 他. 働く母親のソーシャル・サポート・ネットワークの実態. 産業医科大学雑誌 2005; 27(1): 41-62.
- 10) 八重樫牧子, 江草安彦, 李 永喜, 他. 祖父母の子育て参加が母親の子育てに与える影響. 川崎医療福祉学会誌 2003; 13(2): 233-245.
- 11) 橋本祐美, 橋口香菜子, 山田晶子, 他. 誕生したばかりの孫に対する祖母の思いと関わりに関する研究. 大阪母性衛生学会雑誌 2001; 37(1): 104-109.
- 12) 吉澤英子. 中高年(おばあちゃん)の子育てをめぐる. 母子保健情報 1990; 21: 42-46.
- 13) Bachman HJ, Chase-Lansdale PL. Custodial grandmothers' physical, mental, and economic well-being: comparisons of primary caregivers from low-income neighborhoods. *Family Relations* 2005; 54(4): 475-487.
- 14) Kelley SJ, Whitley D, Sipe TA, et al. Psychological distress in grandmother kinship care providers: the role of resources, social support, and physical health. *Child Abuse and Neglect* 2000; 24(3): 311-321.
- 15) Grinstead LN, Leder S, Jensen S, et al. Review of research on the health of caregiving grandparents. *Journal of Advanced Nursing* 2003; 44(3): 318-326.
- 16) Dellmann-Jenkins M, Blankemeyer M, Olesh M. Adults in expanded grandparent roles: considerations for practice, policy, and research. *Educational Gerontology* 2002; 28(3): 219-235.
- 17) Mayer M. Grandparents rearing grandchildren: circumstances and interventions. *School Psychology International* 2002; 23(4): 371-385.
- 18) 山縣威日, 中山真由美. 孫育ての時間. 岡山: 吉備人出版, 1999.
- 19) 石井邦子, 井出成美, 佐藤紀子. 家族員の育児対処能力向上のための孫育児支援プログラムの有用性と課題. 千葉看護学会雑誌 2008; 14(1): 107-113.
- 20) 朝比奈順子, 福岡秀興, 日暮 眞. 保健センターにおける出産準備教育に関する研究(第1報): 五個荘町保健センターにおけるあたらしいファミリー学級. 母性衛生 1995; 36(1): 91-96.
- 21) 北村安樹子. 子育て世代のワーク・ライフ・バランスと「祖父母力」: 祖父母による子育て支援の実態と祖父母の意識. *Life Design Report* 2008; 185: 16-27.
- 22) 清水美智子. 祖父母と孫のかかわりに関する調査報告書: 祖父母の孫育てをめぐる. 神戸: 兵庫県, 1994.
- 23) 杉井潤子, 泊 祐子, 堀 智晴, 他. 祖父母・孫関係に関する研究(第3報): 「孫育て」にみる祖父母の位置づけおよびその主観的評価. 大阪市立大学生活科学部紀要 1994; 42: 141-153.
- 24) 杉井潤子, 堀 智晴, 泊 祐子, 他. 祖母の「孫育て」に関する研究: 主観的幸福感との関連において. *家族関係学* 1996; 15: 89-102.
- 25) 宮中文子, 松岡知子, 西田茂樹, 他. 中高年女性(祖母)の子育て参加の実態と心理的健康との関連について(第1報). *老年社会科学* 1995; 17(1): 21-29.
- 26) 宮中文子, 松岡知子, 岩脇陽子. 祖母の子育て参加の実態について(第1報) 子育て参加の内容. *小児保健研究* 1996; 55(1): 82-87.
- 27) 宮中文子. 中高年女性(祖母)の子育て参加と心理的健康との関連について 心の健康にプラスとなる孫との関わり方. *女性心身医学* 2001; 6(2): 173-180.
- 28) 小野寺理佳. 別居祖母へのヒアリングデータにみる孫育ての悩みと求められる支援. *季刊社会保障研究* 2004; 40(2): 166-176.
- 29) 小野寺理佳. 別居祖母にみる祖親性: グランドペアレンティング教育の現実的基盤に関わらせて. 北海道大学大学院教育学研究科紀要 2004; 95: 119-141.

- 30) 久保恭子, 刀根洋子, 及川裕子. わが国における祖母の育児支援 祖母性と祖母力. 母性衛生 2008; 49(2): 303-311.
- 31) Bowers BF, Myers BJ. Grandmothers providing care for grandchildren: consequences of various levels of caregiving. *Family Relations* 1999; 48(3): 303-311.
- 32) Goodman CC. Intergenerational triads in grandparent-headed families. *Journals of Gerontology Series B-Psychological Sciences and Social Sciences* 2003; 58(5): S281-S289.
- 33) Goodman CC, Silverstein M. Grandmothers raising grandchildren: ethnic and racial differences in well-being among custodial and coparenting families. *Journal of Family Issues* 2006; 27(11): 1605-1626.
- 34) Hughes ME, Waite LJ, LaPierre TA, et al. All in the family: the impact of caring for grandchildren on grandparents' health. *Journals of Gerontology Series B-Psychological Sciences and Social Sciences* 2007; 62(2): S108-S119.
- 35) Minkler M, Fuller-Thomson D. Physical and mental health status of American grandparents providing extensive child care to their grandchildren. *Journal of the American Medical Women's Association* 2001; 56(4): 199-205.
- 36) Musil C. Health, stress, coping, and social support in grandmother caregivers. *Health Care for Women International* 1998; 19(5): 441-455.
- 37) Musil CM. Health of grandmothers as caregivers: a ten month follow-up. *Journal of Women and Aging* 2000; 12(1-2): 129-145.
- 38) Musil CM, Ahmad M. Health of grandmothers: a comparison by caregiver status. *Journal of Aging and Health* 2002; 14(1): 96-121.
- 39) Szinovacz ME, Davey A. Effects of retirement and grandchild care on depressive symptoms. *International Journal of Aging and Human Development* 2006; 62(1): 1-20.
- 40) Standing T, Musil C, Warner C. Grandmothers' transitions in caregiving to grandchildren. *Western Journal of Nursing Research* 2007; 29(5): 613-631.
- 41) 西谷理沙, 南部真紀, 飯田美代子. 第1子および第2子出産後1年間の1母親の身体活動量と自覚疲労の比較. 群馬県立県民健康科学大学紀要 2006; 1: 97-104.
- 42) 大石恵美子, 國分真佐代, 飯田美代子. 産後3年間の母親の身体活動と自覚疲労 経産婦の横断調査から. 日本ウーマンズヘルズ学会誌 2005; 4: 75-80.
- 43) 飯田美代子, 南部真紀, 今井理沙, 他. 出産後2年間の母親の身体活動と自覚疲労および感情の変化. 母性衛生 2005; 46(1): 87-99.
- 44) 國分真佐代, 飯田美代子, 今井理沙, 他. 出産後6ヵ月までの母親の身体活動と自覚疲労の推移. 母性衛生 2004; 45(2): 260-268.
- 45) 田中満由美, 倉岡千恵. 乳幼児を抱える専業主婦の疲労度に関する研究 ストレス・育児行動・ソーシャルサポートに焦点をあてて. 母性衛生 2003; 44(2): 281-288.
-